

し、球状またはラグビーボール状の集合体となる。その形成は内胚乳の内部にいくほど早いようである。形成核(hilum)は各粒に1個ずつあり、各粒は独立していて複粒ではなく、単粒の集合体である。

A-30 でんぷん粒の研究

一米でんぷん粒の生成過程の微細構造(Ⅱ)-

広島大教育 川上いつる

○田村 咲江

1. 前題と同じ
2. 前題と同じ
3. 前演者のあとを引き継ぎ、種皮より内側におけるでんぷん粒の形成について述べる。種皮より内側に外胚乳、糊粉層、内胚乳と並んでいるが、糊粉層は蛋白、脂肪成分が多いため、空胞化細胞質に富み、でんぷん粒の形成は少ない。内胚乳はどの細胞もでんぷん粒が多くみられ、成熟期にはでんぷん粒で充満する。この域のでんぷん粒の形成は種皮の外のそれとは異なり、電子密度の高い顆粒中に生じるようである。はじめでんぷん粒は球形をなしてその中に数個生じ、更にその中央部にもでき、やがてでんぷん粒は多面体状になって隙間なく充満